

「証詞」

聖書の中の羊と羊飼いの話はよく聞くとおもいます。その中でも私は 2 つ好きな箇所があります。1 つめはルカによる福音書 15 章 1-7 節、2 つ目は詩篇 23 編の 1-5 節です。この 2 つの箇所が好き理由は羊がどんな危険に曝されようとも、はぐれて 1 匹になったとしても羊飼いは探して見つけ出してくれます。そんな羊飼いの 1 匹の羊に対する思いの強さを感じるからです。聖書では、羊飼いは神様、羊は私達人間と言われます。神様は全てを知っている方なのでもちろん羊 1 匹 1 匹の個性も分かっています

私がイエス様に会いキリシチャンとなったきっかけもこの羊と羊飼いの関係に似ているのかなと思います。私のキリシチャンとの出会いは少し変わっています。普通だとキリシチャンホームに生まれて物心がつかないうちから教会に通う人が多いと思います。私の場合、小学 5 年生の時に近所に教会が引っ越してきました。珍しいケースかと思ひます。

当時、私の家族にキリシチャンは誰もいませんでした。しかし父と祖母がミシヨンスクールの学んでいたことから父と祖母に連れられ教会に通うようになりました。

初めて教会に行った時は、まだ幼いこともあり正直よく分からない場所だと感じました。お祈りをし、賛美歌を歌い、分厚い聖書を読み、牧師先生の説教を聞く。このすべてが当時の私にとって不思議な体験でした。初めて行った感想としては牧師先生がとてもユニークな方で楽しくて、また行きたいなという印象でした。

それから教会には行き続け、中学はミシヨンスクールに入学し、日頃から聖書に触れる機会が増えました。その後、中学 2 年生になり聖書に興味を持ち始め、小学生の時、わからなかったことが少しずつ分かってきて、以前よりも教会に行くことが楽しくなりました。しかし当時私は部活をやっていて、日曜が試合などで教会に行かなくなっていました。

そんな中、私や私の家族にとって転機が訪れました。それは祖母が洗礼を受ける決意をしてキリシチャンとなることということです。それから祖母のキリシチャンとしての真面目な姿勢に憧れ、その時から私もキリシチャンになりたいと強く考え始めました。私はこの時祖母がキリシチャンになるということを通して羊飼いであるイエス様は教会から離れていた羊である私に気づかせてくださったのだなと感じました。

その後牧師先生にそのこととお話しました。牧師先生は「それがイエス様に会った証拠だよ」と言って私を後押ししてくれました。そして、その年の 12 月 25 日キリシチャンとなりました。

羊としてはくれた私をイエス様は再び呼び戻してくださりました。これからもイエス様の愛を常に感じ、神様、またイエス様に喜ばれる生活をしていける人間でありたいと思ひます。そして毎日どんなに小さなことでも感謝し生きていきたいと思ひます。